

第19回

日本外来精神医療学会

集団治療の多様性からみた
外来精神医療

会期

2019年7月20日(土)・21日(日)

プログラム・抄録集

会場

福岡電気ビル みらいホール (福岡県福岡市)

大会長

徳永 雄一郎 不知火病院 理事長

事務局長

松下 満彦 不知火病院 院長



第19回

日本外来精神医療学会

プログラム・抄録集

集団治療の多様性からみた 外来精神医療

会期 2019年7月20日(土)・21日(日)

会場 福岡電気ビル みらいホール (福岡県福岡市)

大会長 徳永 雄一郎 不知火病院 理事長

事務局長 松下 満彦 不知火病院 院長

第19回日本外来精神医療学会 運営事務局

医療法人社団新光会 不知火病院

〒836-0004 福岡県大牟田市手鎌1800

TEL 0944-55-2000 FAX 0944-51-4005

E-mail: jaaps19@shiranui-byoin.or.jp

INDEX

ご挨拶	1
交通のご案内	2
会場案内図	3
参加者へのご案内	4
座長および講師・シンポジストの先生方へ	8
一般演題(ポスター)発表者の先生方へ	11
日 程 表	12
プログラム	14
抄 録	
講 演	25
シンポジウム	29
ランチョンセミナー・ワークショップ	69
一般演題(ポスター発表)	75
後援団体・協賛一覧	96

ご 挨 拶

第19回日本外来精神医療学会にあたって

第19回日本外来精神医療学会

大会長 徳永 雄一郎

医療法人社団新光会 不知火病院 理事長



この度、第19回日本外来精神医療学会総会を2019年7月20日(土)、21日(日)の二日間に亘り、福岡電気ビルみらいホールにて開催させて頂くこととなりました。

第18回大会では「くらし・仕事・メンタルヘルスと精神医療の接点」というテーマの下、メンタルヘルス不調へのアプローチを議論し、その展開から多職種連携の重要性を再認する有意義な場となりました。

現代の社会はストレス社会と言われ、今後ますますストレスが原因となる心の病が増加していくことが予測されます。精神科医療の需要が多様化し、かつ増大していくことは明らかです。やはり、多様な問題を抱える方々に対して、カウンセリングや種々の治療を組み合わせる多様な医療体制の構築と、集団体験を通じた心の健康回復への働きかけが必要不可欠だと考えております。

今回のテーマを「集団治療の多様性からみた外来精神医療」として、国境や専門領域を超えたシンポジウムを企画しております。実践知にふれ、他職種との協働、各療法について幅広く学び合い、その多様さの中から私たち、そしてご参加いただく方々の課題が明確になるのではないかと期待しております。

また、本大会は九州・福岡ではじめて開催致します。福岡は、開発もすすめられ海外からの旅行客も増えております。海の幸、山の幸と食彩豊かな都市でもあります。

多くの方にご参加いただけますことを、心よりお待ち申し上げます。

交通のご案内

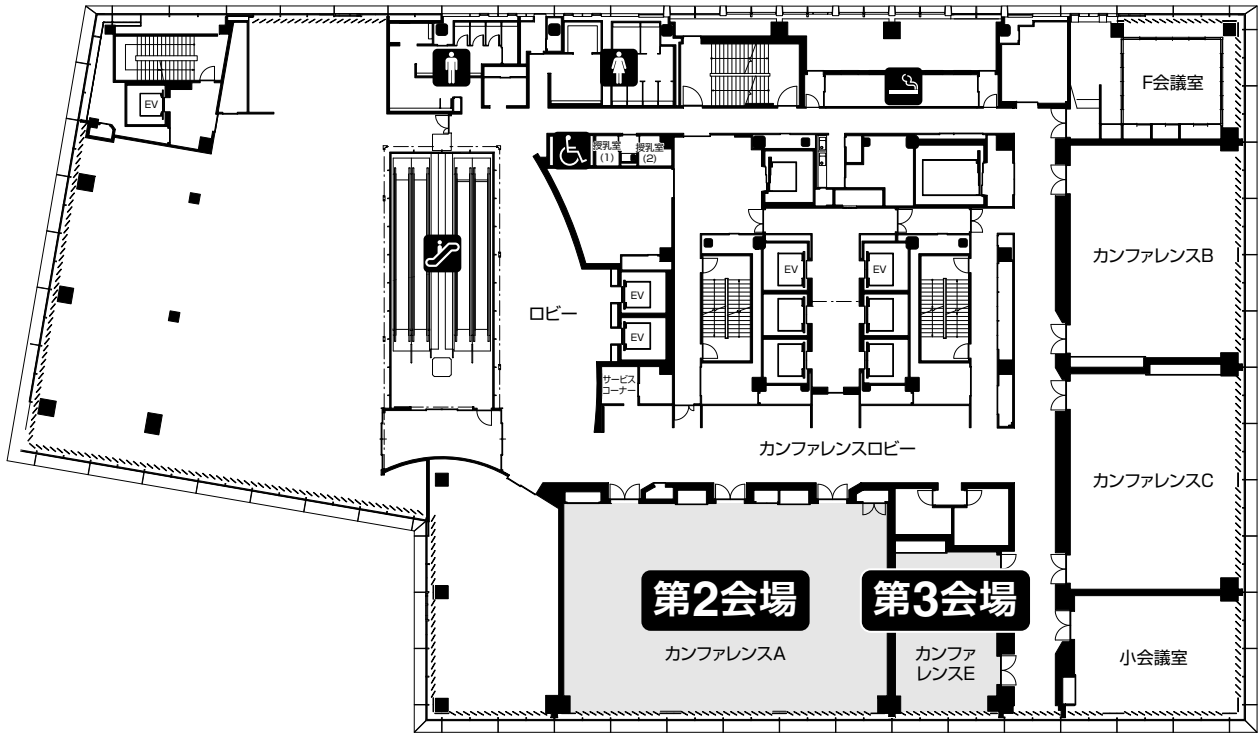


- バス JR博多駅前A(薬院・城南線方面)より乗車 → 「渡辺通1丁目」降車すぐ
天神大丸前バス停「4C」より乗車 → 「渡辺通1丁目」降車すぐ
- タクシー 天神より約5分
JR博多駅より約7分
福岡空港より約25分
- 西鉄電車 西鉄「薬院駅」より徒歩7分
- 地下鉄 七隈線「渡辺通駅」(電気ビル本館地下2階へ直結)
※七隈線は空港線、箱崎線とは接続していません。

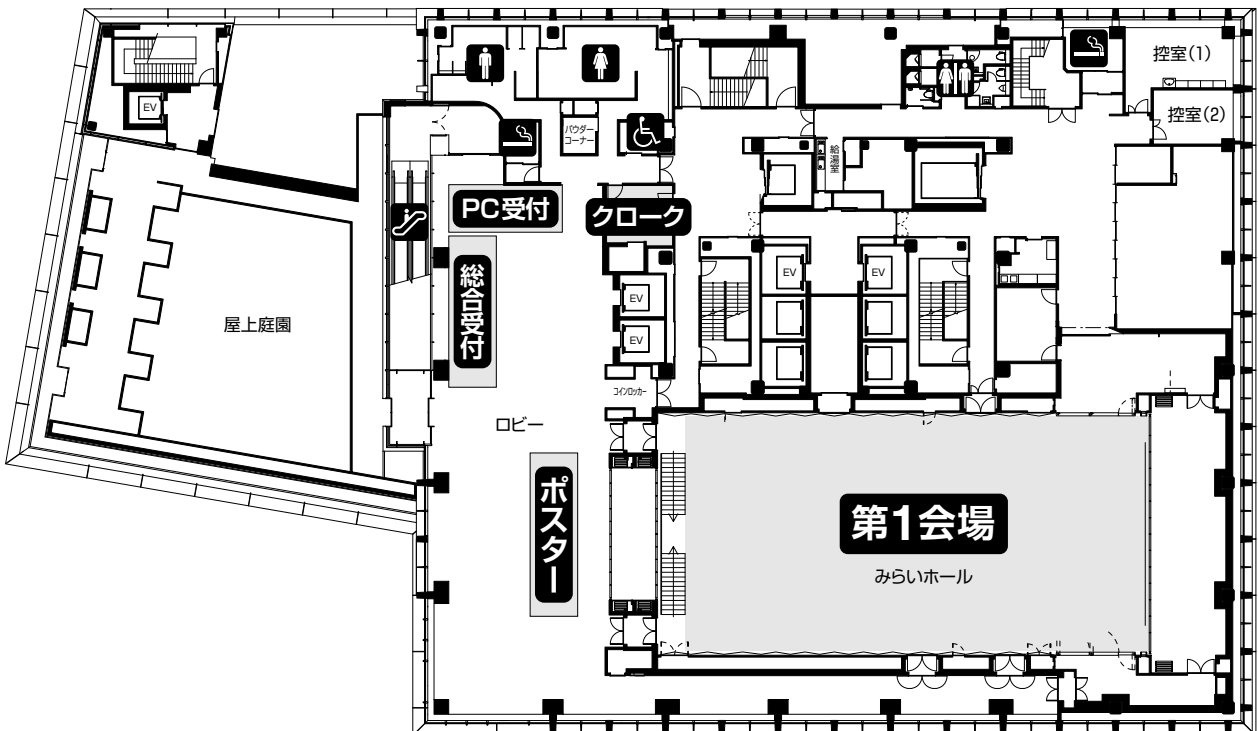
会場案内図

電気ビル 共創館 / みらいホール

3F



4F



参加者へのご案内

〈当日参加受付〉

場 所：福岡電気ビル 共創館 4階

受付時間：7月20日（土）9:00～17:20

7月21日（日）9:00～16:00

当日参加登録される方は、必ず、当日参加受付にて参加手続きを済ませてください。

〈当日参加費〉

会員・医師（入会申し込み中含む）	8,000円
非会員・医師	10,000円
会員・医師以外の職種（入会申し込み中含む）	3,000円
非会員・医師以外の職種	4,000円
学生（要学生証：当日登録のみ）	2,000円
懇親会費	4,000円

〈プログラム抄録集〉

購入を希望される方は、受付にて1冊1,000円で販売しております。

〈懇親会について〉

事前参加登録にてお申込みいただけます。ただし、申し込み枠に空席がある場合に限り、学会受付で手続き可能です。

日 時：7月20日（土）17:45～19:45

会 場：PRONTO 福岡電気ビル北館店

参加費：4,000円

〈ワークショップについて 太古の医学アーユルヴェーダの精神科治療〉

日 時：7月21日（日）9:00～10:00

会 場：福岡電気ビル 共創館3階 カンファレンス室 A

参加者の皆様はどなたでもご参加いただけます。

〈参加手続き〉

1. 学会への参加手続き

会場内では、必ず、参加証を着用してください。

1) 事前参加登録の方へ

事前に郵送した参加証および抄録集を忘れずにお持ちください。

2) 当日参加登録の場合

当日参加受付で参加費をお支払いください。引換に参加証をお渡しします。

※注意事項

- 参加証は、原則、再発行いたしません。
- 参加証ケースは受付に準備しておりますので、ご利用ください。

2. 懇親会への参加手続き

1) 事前参加登録の場合

事前に郵送した参加証に目印のシールを貼ってあります。

参加証を忘れずにお持ちください。

2) 当日参加登録の場合

申し込み枠に空席がある場合に限り、受付にて参加を受け付けております。

引換に参加証に目印のシールを貼ります。お申込みは先着順とし、定員に達しましたら、お断りする場合もございますので、ご了承ください。

〈クローク〉

場 所：福岡電気ビル 共創館 4階 エレベーター横にクロークを設置しております。

開設時間：7月20日（土）9:00～18:00

7月21日（日）9:00～16:00

※お荷物は必ず開設時間内にお受け取りください。

※日をまたいでのお預かりはいたしませんのでご注意ください。

※大型荷物のみお預かりいたします。貴重品、傘のお預けはご遠慮ください。

〈弁当・飲み物〉

会場内でのお弁当等の販売は行いません。ランチョンセミナーもしくは会場周辺のコンビニエンスストア・飲食施設等をご利用ください。飲み物については、自動販売機をご利用ください。飲食は許可されたエリアのみでお願いします。

〈会場内でのご注意〉

- 会場での呼び出しは一切行いません。
- 喫煙は所定の場所をお願い致します(共創館 4階・3階の各フロアに喫煙ルームがございます)。
- 会場内での録音、写真撮影・ビデオ撮影は禁止します(関係者・大会事務局が許可した者を除く)。携帯電話等はマナーモードに設定いただくか、電源をお切りください。

〈単位取得について〉

【日本医師会認定産業医 単位(生涯研修)】

シンポジウムの一部は日本医師会認定産業医の単位申請の対象となります。

区分(項目): 生涯

単位数: 3単位(各1.5単位)

- 対象の講座受講前に、各会場前にて申請用紙を受け取ってください。申請用紙にお名前とご所属を記入の上、講座終了後に「単位申請受付」まで提出してください。

7/20(土) 14:10~15:40	第1会場	1.5単位
シンポジウム2 「ポジティブサイコロジーからみた笑いの効果」		
7/20(土) 15:50~17:20	第2会場	1.5単位
シンポジウム5 「自殺防止」		

【日本精神神経学会 専門医単位】

一部のシンポジウムは、日本精神神経学会の専門医単位申請(B群)の対象となっています。

- 会期中に、受付にあります「研修ポイント受付」にお立ち寄りください。
申請の際には、「日本精神神経学会 会員カード」の提示が必要です(カードリーダーで読み取り、参加登録します)。

7/20(土) 10:30~12:30	第1会場	2単位
シンポジウム1 「発達に課題を持つ患者の人格を成長させる」		
7/21(日) 10:45~12:15	第2会場	1単位
シンポジウム6 「治療初期に休職者の復職可能性を予測する」		

〈学会行事〉

- 1) 理事評議員会 共創館 3階 小会議室 E 12:30～13:30
- 2) 総 会 共創館 4階 みらいホール 13:40～14:00

〈大会スタッフ〉

大会スタッフはスタッフ用の名札を着用しております。ご不明な点等ございましたら、お気軽にお問い合わせください。

〈次回(第20回)日本外来精神医療学会開催案内〉(予定)

大会長：高野 知樹(医療法人社団 弘富会 神田東クリニック)

開催期日：2020年10月24日(土)、25日(日)

テーマ：「(仮)まなぶ・はたらく・そだてる・みとる …ライフサイクルと精神医療」

場 所：一橋大学一橋講堂

住 所：東京都千代田区一ツ橋2丁目1番2号

座長および講師・シンポジストの先生方へ

1. 担当のプログラム・発表時間について

プログラム抄録集・ホームページにてご確認ください。

2. 受付以降の流れについて

〈座長の先生方へ〉

予めプログラム時間をご確認の上、設定された時間内で発表や討論が円滑に進行するようにご配慮ください。

〈講師・シンポジストの先生方へ〉

①口演演者の方へ ※一般(ポスター)演題発表を除くすべて

受付で参加登録をお済ませのうえ、担当されるご発表の30分前までにPC受付にて発表用データのチェック・動作の確認・登録を済ませてください。2日目午前中の発表の方はなるべく発表前日中にご確認をお願いいたします。

②一般演題(ポスター発表)

「一般演題(ポスター)発表者の先生方へ」をご確認ください。

③シンポジウム等の事前打ち合わせ

「座長・演者控室」を担当プログラムの時間の前後に合わせて割り振りいたします(当日、受付時にご案内いたします)。担当のコーディネーター・座長(司会)とご相談のうえ、ご利用ください。開始時、終了時はスタッフの案内にしたがってご移動ください。なお貴重品お荷物等の管理は各自でお願いいたします。

3. 発表用データについて

①PC受付

場 所：福岡電気ホール 共創館 4階ロビー

受付時間：7月20日(土) 9:00～17:20

7月21日(日) 9:30～15:00

※混雑が予想されますので、時間に余裕を持ってお越しください。

※ Windows 以外の OS で作成された場合は文字化け・段落ズレ等にご注意ください。

②発表方法

発表はすべて PC によるプレゼンテーションとなります。

③倫理的配慮について

発表にあたっては十分なインフォームド・コンセントを得て、プライバシーに関する守秘義務を遵守し、匿名性の保持に十分な配慮をしてください。

また、ご所属の倫理委員会がある場合は審査を受けて承認されたことや、対象者に対して文書等で説明・同意を得たことを表示してください。

なお COI(利益相反)に関しても、日本精神神経学会の指針に従うようお願いします。

④発表機材とデータ作成

1) 当日会場での対応アプリケーションは Windows 版 Microsoft PowerPoint(2003/2007/2010/2013/2016)となります。

2) 文字フォントは PowerPoint に設定されている標準的なフォントをご使用ください(特殊フォントの使用は控えてください)。

推奨フォント：日本語 …… MS ゴシック・MSP ゴシック・MS 明朝・MSP 明朝
英 語 …… Century・Century Gothic

3) 作成した発表データは USB メモリーまたは CD-R(RW は不可)に保存して、当日発表会場にある PC 受付お持ちください。

※ USB または CD-R は事前にウイルスチェックを行ったうえでデータを保存願います。
また保存したデータは別のパソコンでコピーをしていただき、正常に再生されることをご確認ください。

4) 保存したデータはファイル名にセッション名(タイトル不要)と氏名を必ず入力してください。

5) PowerPoint 以外のソフト及び Mac で作成されたデータは、パソコン本体をお持込みください。

※ Mac を使用する場合は、必ず付属の変換コネクタもご用意ください。

6) モニター出力端子は VGA ケーブル(D-sub15)を準備します。

⑤進行方法

- 各プログラムの発表時間は事前にご確認ください。シンポジウム等では座長(司会)の指示にしたがってください。各種講演、シンポジウムについては、あらかじめ申し合わせた時間内に収まるようお願いいたします。
- 座長(司会)の先生には発表の途中で会場担当者が時間・進行の目安を合図いたします。定刻どおりに進行するよう円滑な運営にご協力をお願いいたします。
- 発表時の PC の操作は演者・発表者ご自身で操作してください。
- 登壇・降壇につきましては、スタッフの指示にしたがってください。

⑥質疑応答

質疑応答は座長(司会)の指示に従いご発言いただきます。会場にマイク係が待機していますので、座長の指示で質問者のところにマイクをお持ちいたします。時間の都合や内容によっては、座長の判断で、途中で打ち切ることもあります。

4. COIについて【重要】

日本専門医機構による認定に伴い、公益社団法人日本精神神経学会の専門医単位取得対象のプログラムにつきまして、認定条件を考慮したうえで下記のように決定しました。

公益社団法人日本精神神経学会の専門医単位取得対象のプログラムにおける発表につきましては、「COI (conflict of interest) に関して、学術集会等開催時の申告及び演題発表時の開示が必要」となりました。以下の専門医単位取得対象のプログラムにおける発表内容に関連して、開示すべき利益相反関係にある企業・法人組織等の有無につき、当日の発表スライドに必ず明示してください。COIの基準につきましては日本精神神経学会のHPをご参照ください。

〈 https://www.jspn.or.jp/modules/about/index.php?content_id=22 〉

例1) 開示情報がある場合の記載(必要な情報が開示されれば、形式は自由です)

日本外来精神医療学会利益相反(COI)開示

筆頭発表者名：〇〇 〇〇

発表に関連し、開示すべき COI 関係にある企業など：

- 受託研究・共同研究費：〇〇製薬
- 奨学寄附金：〇〇製薬
- 寄附金講座所属：あり(〇〇製薬)

例2) 開示情報がない場合の記載(必要な情報が開示されれば、形式は自由です)

日本外来精神医療学会利益相反(COI)開示

筆頭発表者名：〇〇 〇〇

発表に関連し、開示すべき COI 関係にある企業などはありません。

一般演題(ポスター)発表者の先生方へ

(1) 事前の発表データ作成について

※ポスター文字のポイント(pt)については下記を参照に作成をお願いします。

1) 演題名、氏名、所属貼付部分寸法：縦20cm、横70cm

- 演題名の文字：144pt以上(2行にわたる場合は100pt以上)
- 氏名、所属の文字：72pt.以上

2) 文字(ポスター)貼付部分寸法縦153cm、横90cm

- 文字は出来る限り30pt以上

※最上段に目的と結論を掲示し、発表内容を高さ153cm、幅90cmの間に収まるようにグラフ、写真、カラー資料等を提示してください(A0サイズを目安にしてください)。

(2) ポスター貼付時間

7月20日(土) 9:00より

7月21日(日) 14:30まで

(3) ポスター会場内の展示パネルに演題番号を確認の上、貼付してください(右図参照)。

(4) 発表会場に来場されましたら、発表用リボンを受け取ってください。

(5) 貼付のための画鋏及び演題番号は事務局で準備します(各パネルに用意)。

(6) 貼付のための椅子を数か所に設置しますのでご利用ください。

(7) 発表日時

7月20日(土) 14:10～15:10

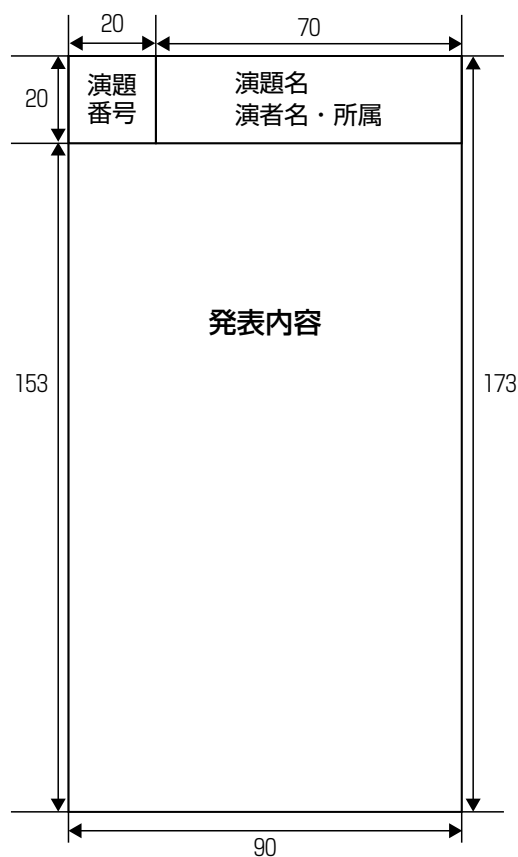
(8) ポスター撤去時間

7月21日(日) 14:30～15:00

撤去時間を過ぎても掲示してあるポスターは、事務局にて撤去処分いたしますので、予めご了承ください。

(9) 第19回日本外来精神医療学会奨励賞について

懇親会にて発表授与します。懇親会にご参加できない先生は当日お伝えください。



1日目 2019年7月20日(土) 福岡電気ビル 共創館

	第1会場 4階 みらいホール	第2会場 3階 カンファレンス室 A	第3会場 3階 カンファレンス室 E	ポスター会場 みらいホールホワイエ
9:00	9:00～ 受付開始			9:00～
10:00	9:30～9:45 開会・大会長挨拶 9:45～10:30 基調講演(理事長講演) 「異文化ストレス症候群」再考 講師：大西 守 座長：阿部 裕			ポスター 準備・閲覧
11:00	10:30～12:30 精(2) シンポジウム 1 発達に課題を持つ患者の 人格を成長させる 座長：今村 明 高野 知樹 シンポジスト：小林 隆児 田中 理香 今村 明 徳永 雄一郎 特別指定討論：西園 昌久			
12:00	12:30～13:30 ランチョンセミナー 1 不安症とうつ病との関連について ～特に社交不安症(SAD)に着目して～ 講師：朝倉 聡 座長：寺尾 岳 共催：持田製薬(株)・吉富薬品(株)		12:30～13:30 理 事 会	
13:00	13:40～14:00 総 会			
14:00	14:10～15:40 産(1.5) シンポジウム 2 ミニ・シンポジウム 「笑いと精神科医療」& ワークショップ「笑いヨガ」 座長：市来 真彦・島松 まゆみ シンポジスト：大平 哲也・市来 真彦	14:10～15:40 シンポジウム 3 集団療法からみた 外来治療の多様性 座長：内田 直樹・早坂 友成 シンポジスト：木村 尚美・前田 隆光 平尾 渉・内野 俊郎		14:10～15:10 一般演題 (ポスター 発表)
15:00	15:50～17:20 シンポジウム 4 アジア諸国の外来精神医療 座長：堀 輝 シンポジスト：朴 相運 南 達元 新福 尚隆	15:50～17:20 産(1.5) シンポジウム 5 自殺防止 座長：衛藤 暢明 松下 満彦 シンポジスト：衛藤 暢明 松下 満彦 江藤 真一		
16:00				
17:00				
18:00	17:45～19:45 懇 親 会			

2日目 2019年7月21日(日) 福岡電気ビル 共創館

	第1会場 4階 みらいホール	第2会場 3階 カンファレンス室A	第3会場 3階 カンファレンス室E	ポスター会場 みらいホールホワイエ
8:30	8:30～ 受付開始			8:30～
9:00		9:00～10:00 ワークショップ 太古の医学アーユルヴェーダの 精神科治療 ～非薬物治療としての 『シロダーラ』の大きな可能性～ 講師：田端 瞳		ポスター閲覧
10:00	10:00～10:45 大会長講演 時代の変化と国民の ニーズからみた精神医療 講師：徳永 雄一郎 座長：大西 守			
11:00	10:45～12:15 精(1) シンポジウム6 治療初期に休職者の 復職可能性を予測する 座長：五十嵐 良雄 横山 太範 シンポジスト：要 済 片桐 陽子 高田 和秀 大仁田 広恵	10:45～12:15 シンポジウム7 スポーツ精神医学とは ～集団治療とスポーツ 座長：永井 宏 大西 守 シンポジスト：横山 浩之 田中 謙太郎 永井 宏 大西 守		
12:00	12:15～13:15 ランチョンセミナー2 軽症うつ病の診断と治療 —特に適応障害による うつ状態との鑑別 講師：中村 純 座長：白川 治	12:15～13:15 ランチョンセミナー3 統合失調症における dopamine regulator の有用性： アリピプラゾール(LAI)と プレクスピプラゾールの可能性 講師：吉村 玲児 座長：松下 満彦		
13:00	▲			
	共催：日本イーライリリー(株)・塩野義製薬(株)		共催：大塚製薬(株)	
14:00	13:30～15:00 シンポジウム8 外来機能の拡大と連携 座長：佐久間 啓 張 賢徳 シンポジスト：浦島 創 進藤 太郎 横山 太範	13:30～15:00 シンポジウム9 入院治療から見た外来精神医療 座長：栗田 輝久 小山 文彦 シンポジスト：山岡 功一 三根 芳明 三木 和平		14:30～15:00 ポスター撤去
15:00	15:15～16:00 特別講演 福岡県の外来精神医療 ～福岡県デイ・ケア研究協議会 30年の歩み～ 講師：飯田 仁志 座長：内野 俊郎			
16:00	16:00～ 閉会式			

プログラム

会場：福岡電気ビル 共創館

第1日目 7月20日(土)

9:30～9:45

開会・大会長挨拶

第1会場(4階 みらいホール)

大会長：徳永 雄一郎(医療法人社団新光会 不知火病院)

9:45～10:30

基調講演(理事長講演)

第1会場(4階 みらいホール)

座長：阿部 裕(四谷ゆいクリニック)

「異文化ストレス症候群」再考

大西 守(公益社団法人 日本精神保健福祉連盟、日本外来精神医療学会 理事長)

10:30～12:30

シンポジウム1

第1会場(4階 みらいホール)

座長：今村 明(長崎大学病院 地域連携児童思春期精神医学診療部)

高野 知樹(医療法人社団弘富会 神田東クリニック)

S1 [発達に課題を持つ患者の人格を成長させる]

S1-1 関係病理を見据えた治療によって患者の人格発達は促される

小林 隆児(西南学院大学大学院 人間科学研究科臨床心理学専攻)

S1-2 発達に課題を持つ患者の人格を成長させるために

田中 理香(スタジオ リカ クリニック)

S1-3 神経発達症者の愛着、トラウマ、人格発達の問題

今村 明(長崎大学病院 地域連携児童思春期精神医学診療部)

S1-4 うつ病と人格の発達

徳永 雄一郎(医療法人社団新光会 不知火病院)

特別指定討論 西園 昌久(福岡大学 名誉教授)

L1 不安症とうつ病との関連について ～特に社交不安症(SAD)に着目して～

朝倉 聡(北海道大学保健センター・大学院医学研究院 神経病態学分野精神医学教室 准教授)

共催：持田製薬株式会社・吉富薬品株式会社

座長：市来 真彦(東京医科大学 精神医学分野、東京医科大学病院)
島松 まゆみ(医療法人社団新光会 不知火病院)

S2 [ミニ・シンポジウム「笑いと精神科医療」&ワークショップ「笑いヨガ」]

S2-1 笑いと精神医療 ～こころと身体を癒す笑いの効果～

大平 哲也(福島県立医科大学 医学部 疫学講座)

S2-2 現代の外来精神科医療における治療目標と治療戦略 ～二軸の論理と笑いの関係～

市来 真彦(東京医科大学 精神医学分野)

座長：内田 直樹(医療法人すずらん会 たろうクリニック)
早坂 友成(杏林大学保健学部 作業療法学科)

S3 [集団療法からみた外来治療の多様性]

S3-1 当事者・家族との協働 ～「誰でも地域で暮らせる」を目指して

木村 尚美(医療法人社団宙麦会 ひだクリニック)

S3-2 リワークプログラムにおける集団療法の有効性

前田 隆光(東邦大学医療センター佐倉病院 メンタルヘルスクリニック
産業精神保健・職場復帰支援センター)

S3-3 フリースクール運営から考える精神科医療における思春期支援

平尾 渉(医療法人静光園 第二病院
カウンセリングルーム・フリースクール・サポート校『ソフィア』)

S3-4 多職種連携から超職種連携へ ～デイケアのチーム力からの学び～

内野 俊郎(久留米大学医学部 神経精神医学講座)

15:50～17:20 シンポジウム4

第1会場(4階 みらいホール)

座長：堀 輝(産業医科大学医学部 精神医学教室)

S4 [アジア諸国の外来精神医療]

S4-1 韓国の外来及び Day Care 現況

朴 相運(大同病院)

S4-2 上海市精神衛生中心外来精神医療及び精神医療現状

南 達元(上海交通大学附属上海市精神衛生中心)

S4-3 アジアの精神医療の流れ —施設から地域での治療へ—

新福 尚隆(神戸大学医学部 名誉教授、福岡ブックスクリニック)

15:50～17:20 シンポジウム5

第2会場(3階 カンファレンス室 A)

座長：衛藤 暢明(福岡大学医学部 精神医学教室)

松下 満彦(医療法人社団新光会 不知火病院)

S5 [自殺防止]

S5-1 自殺予防外来の試み

衛藤 暢明(福岡大学医学部 精神医学教室)

S5-2 入院治療と外来治療からみた、希死念慮への取り組み

松下 満彦(医療法人社団新光会 不知火病院)

S5-3 阪南病院における自殺予防活動の実際

江藤 真一(医療法人杏和会 阪南病院)

**WS 太古の医学アーユルヴェーダの精神科治療
～非薬物治療としての『シローダーラ』の大きな可能性～**

田端 瞳(医療法人社団新光会 不知火病院)

座長：大西 守(公益社団法人 日本精神保健福祉連盟、日本外来精神医療学会 理事長)

時代の変化と国民のニーズからみた精神医療

徳永 雄一郎(医療法人社団新光会 不知火病院)

座長：五十嵐 良雄(医療法人社団雄仁会 理事長)

横山 太範(医療法人社団心劇会 さっぽろ駅前クリニック)

S6 [治療初期に休職者の復職可能性を予測する]

S6-1 かなめクリニック・リワーク利用者にみる復職可能性の見立て

要 済(医療法人要会 かなめクリニック)

**S6-2 復職可能性を予測して、高めるために
～リワークプログラムの質の重要性**

片桐 陽子(医療法人栄仁会 京都駅前メンタルクリニック)

S6-3 リワークプログラムにおける職場連携に関して

高田 和秀(医療法人社団新光会 不知火病院)

**S6-4 継続復職を予測する要因について
～不知火式復職準備性チェックリストより**

大仁田 広恵(ジャパンEAPシステムズ)

座長：永井 宏(医療法人日明会 日明病院)

大西 守(公益社団法人 日本精神保健福祉連盟、日本外来精神医療学会 理事長)

S7 [スポーツ精神医学とは ～集団治療とスポーツ]

S7-1 精神科デイケアにおけるスポーツの実際

横山 浩之(福岡大学医学部 精神医学教室)

S7-2 統合失調症におけるスポーツの役割

田中 謙太郎(医療法人社団緑風会 水戸病院)

S7-3 スポーツ精神医学とは

永井 宏(医療法人日明会 日明病院)

S7-4 精神障害者スポーツの国際化への道のり

大西 守(公益社団法人 日本精神保健福祉連盟、日本外来精神医療学会 理事長)

座長：白川 治(近畿大学医学部 精神神経科学教室)

L2 軽症うつ病の診断と治療 ー特に適応障害によるうつ状態との鑑別

中村 純(社会医療法人北九州病院 北九州古賀病院)

共催：日本イーライリリー株式会社・塩野義製薬株式会社

座長：松下 満彦(医療法人社団新光会 不知火病院)

L3 統合失調症における dopamine regulator の有用性： アリピプラゾール(LAI)とブレクスピプラゾールの可能性

吉村 玲児(産業医科大学医学部 精神医学教室)

共催：大塚製薬株式会社

座長：佐久間 啓(社会医療法人 あさかホスピタル)

張 賢徳(帝京大学医学部 医学科 医学部附属溝口病院 精神神経科)

S8 [外来機能の拡大と連携]**S8-1 精神科医による認知症患者への訪問診療**

浦島 創(医療法人すずらん会 たろうクリニック)

S8-2 単科精神科病院外来における弁証法的行動療法の取り組み

進藤 太郎(医療法人唐虹会 虹と海のホスピタル、福岡大学医学部 精神医学教室)

S8-3 当法人における外来機能の拡大と連携

横山 太範(医療法人社団心劇会 さっぽろ駅前クリニック)

座長：栗田 輝久(医療法人社団桜珠会 可也病院)

小山 文彦(東邦大学医療センター佐倉病院)

S9 [入院治療から見た外来精神医療]**S9-1 入院形態からみたうつ病の入院治療**

山岡 功一(医療法人社団澤記念会 神経科浜松病院)

S9-2 ストレスケア病棟治療経験から見えてきたもの

三根 芳明(医療法人社団明和会 西八王子病院)

**S9-3 入院医療から見た外来医療
—精神科クリニックの立場から—**

三木 和平(医療法人社団ラルゴ 三木メンタルクリニック)

15:15～16:00 **特別講演**

第1会場(4階 みらいホール)

座長：内野 俊郎(久留米大学医学部 神経精神医学講座)

福岡県の外来精神医療
～福岡県デイ・ケア研究協議会30年の歩み～

飯田 仁志(福岡大学医学部 精神医学教室)

16:00～

閉会式

第1会場(4階 みらいホール)

一般演題（ポスター） プログラム

会場：福岡電気ビル 共創館

第1日目 7月20日(土)

14:10～15:10

一般演題（ポスター発表）

ポスター会場（みらいホール ホワイエ）

- P-01** 甘木病院における外来患者数の推移について
○吉良 健太郎
医療法人祥風会 甘木病院
- P-02** 東アジア諸国の条約難民・難民認定申請者の受け入れ課題
—日本と韓国と台湾の比較から—
○鶴川 晃
大正大学人間学部 人間環境学科
- P-03** 外国人初診患者が電話予約時から診察を受けるまでの受付、心理の役割
○堺 志緒里
四谷ゆいクリニック
- P-04** 外来看護における自殺予防
○有野 裕子
医療法人社団新光会 不知火病院
- P-05** 勤怠が安定しない勤労者の適応支援について
—パーソナリティの発達促進からの考察—
○加来 明希子¹⁾²⁾、高野 知樹²⁾、吉村 靖司²⁾、武田 龍太郎¹⁾
1)慶神会 武田病院、2)弘富会 神田東クリニック
- P-06** 気分障害に対する集団認知行動療法の実施前後における
バウムテスト特徴の変化
○水野 康弘、玄 東和、諸井 振吾、張 賢徳
帝京大学医学部附属溝口病院 精神科
- P-07** 精神症状の改善による早朝空腹時血中コルチゾールの変化
○南 さわこ、佐藤 康弘
医療法人社団桐藤会 佐藤内科診療所
- P-08** 外来カウンセリングナーズの治療的意義
○松尾 富佐子
医療法人社団新光会 不知火病院

- P-09** 総合病院コンサルテーション外来に対しての非精神科医が求めるもの
○片岡 岳
板橋中央総合病院
- P-10** 外来におけるうつ病休職者の復職支援
～チームリハビリテーションの視点から復職条件を考える～
○前田 佐織、田嶋 祐一郎、品川 純子、龍 亨、佐藤 圭、松下 満彦、徳永 雄一郎
医療法人社団新光会 不知火病院 リハビリテーション科
- P-11** 就労している依存症者への集団精神療法
リカバリープログラムの取り組み
○野口 麻祐子
医療法人社団明善会 御徒町榎本クリニック
- P-12** 外来マインドフルネス集団療法における課題と効果について
○杉本 浩利、松尾 好子、島松 まゆみ、松下 満彦
医療法人社団新光会 不知火病院
- P-13** 当院リワークにおけるプログラムの課題と対策
○寺田 真美、久保田 真作、木佐貫 由美子、迫田 さおり、溝口 祥子、森田 瞳、
諏訪 克也、小林 謙太郎、佐藤 大輔
公益社団法人 いちちょうの樹 メンタルホスピタル鹿児島
- P-14** 「訪問」から「地域へ」つなげるステーション
～三家クリニックならではのひきこもり支援を考察する～
○渡辺 雄貴¹⁾、三家 英明²⁾
1) 医療法人 三家クリニック みつや訪問看護ステーション、2) 医療法人 三家クリニック
- P-15** 外来における r-TMS の現状と取り組み
～開始前後の変化を通して～
○宮崎 由美、小松 ゆみ、川原田 由理、大塚 郁恵
医療法人唐虹会 虹と海のホスピタル 外来
- P-16** リワークプログラムを通じた参加者の内心と行動の変容についての調査
○佐藤 圭¹⁾、田嶋 祐一郎¹⁾、松下 満彦¹⁾、徳永 雄一¹⁾、後藤 玲央²⁾、川崎 弘詔²⁾
1) 医療法人社団新光会 不知火病院、2) 福岡大学医学部 精神医学教室
- P-17** 再休職を前に表出する不調のサイン
～連携の観点から、再休職予防のために医療機関ができること～
○中間 智子
医療法人社団新光会 不知火クリニック

P-18 リワークプログラム修了後のフォローアップの取り組み

○進藤 太郎¹⁾²⁾、古久保 秀夫¹⁾、山口 佳良子¹⁾、横田 淳¹⁾、上堀内 洋允¹⁾、
山口 千晴¹⁾

1)医療法人唐虹会 虹と海のホテル、2)福岡大学医学部 精神医学教室

P-19 当院における弁証法的行動療法のグループスキルトレーニングの実践について

○進藤 太郎¹⁾²⁾、野口 優佳¹⁾、山口 雄三¹⁾、富永 信平¹⁾、仮屋崎 優樹子¹⁾、
小松 ゆみ¹⁾

1)医療法人唐虹会 虹と海のホテル、2)福岡大学医学部 精神医学教室

P-20 外来診療に弁証法的行動療法のグループスキルトレーニングを導入した
3症例について

○富永 信平、進藤 太郎

医療法人唐虹会 虹と海のホテル

Blank page with horizontal dashed lines for writing.

抄 録

講 演

「異文化ストレス症候群」再考

大西 守

公益社団法人 日本精神保健福祉連盟、
日本外来精神医療学会 理事長

演者は1980年からフランス政府給費留学生として、パリ・サンタンヌ病院に3年間留学した。その際、異国での日本人の不応問題に直面し、帰国後においては日本での外国人のメンタルヘルス対策に取り組んできた。特に、西園昌久先生を中心とした多文化間精神医学会設立にも深く関与した。

そうした一連の動きのなかで、演者は1992年に「異文化ストレス症候群」という概念を提唱している。“日本人が異文化を受け入れることに不慣れで、日本社会の急速な国際化にとまどっている過渡期的な現象”が基底にあること。また、大多数の日本人は、単一民族・単一言語・単一国家、さらには広い意味での単一宗教といった心性を抱きがちであることに疑問を抱いたからである。具体的には、以下が当時の認識である。

1. 狭義の異文化ストレスの問題(異国において)

従来からのカルチャーショック、海外不応、文化摩擦

2. 再応の問題(母国において)

帰国子女・海外子女の問題、海外駐在員の帰国後の応問題

3. 異文化を受け入れる側の困惑

留学生への対応不備

亡命や難民などに対する行政・法律面での未整備

4. 恒常的な異文化ストレスの存在(内なる異文化ストレス)

国際結婚、2世・3世の存在、民族・人種・宗教差別

都会の無名性・孤独

5. 新たな異文化ストレスの誕生

価値観の多様化・混乱

それから25年以上が経過し、東京オリンピック・パラリンピック開催を間近に控えた日本社会の国際化の在りようはどうなったのか。残念ながら、あまり変わっていない気がしてならない。

その1つの例として、演者が従事している東日本入国者収容管理センター(茨城)での診療経験などを紹介しながら、「異文化ストレス症候群」を再考してみたい。

略歴

日本精神保健福祉連盟常務理事、日本外来精神医療学会理事長、日本産業精神保健学会副理事長、日本精神衛生学会常任理事、日本障がい者スポーツ協会評議員・医学委員、日本スポーツ精神医学会理事、日本障害者スポーツ学会理事、日本森田療法学会理事、多文化間精神医学会評議員、日本心身医学会評議員などを兼務。

抄 録

シンポジウム

S1-趣旨

発達に課題を持つ 患者の人格を成長させる

徳永 雄一郎

医療法人社団新光会 不知火病院

昨今、大人の発達障害の議論が盛んになってきていることは衆知のことである。一方で種々の精神疾患が軽症化する中で、自閉症も軽症化をたどっている。大人のうつ病では発達の偏りを持つ混在した病態も多い。一方では発達への過剰診断の指摘も見られ始めた。本シンポジウムでは、大人の発達障害は人格の発達がおこるか、という視点で論じてもらう。

抄 録

ランチオンセミナー

ワークショップ

L1

不安症とうつ病との関連について ～特に社交不安症(SAD)に着目して～

朝倉 聡

北海道大学保健センター・大学院医学研究院
神経病態学分野精神医学教室 准教授

不安は、誰しものが体験する情動反応で、正常な不安は、危険を察知し、それに対し防御の準備をおこなうなど日常生活において適応的な側面を持っている。一方、病的な不安では、通常、危険が少ないと考えられる対象や状況においても防御反応が生じ、過剰な強度や頻度、持続期間の長さなどから、日常生活に障害を呈してしまうことになる。病的な不安は、不安症やうつ病など多くの精神疾患で見られる。不安とうつとの関係については、特に英国で一元論か二元論かの大論争(The great debate)がおこなわれたことを考えても、重要な問題であると考えられる。不安症は、DSM-5によると、「分離不安症」「選択性緘黙」「限局性恐怖症」「社交不安症(SAD)」「パニック症」「広場恐怖症」「全般不安症」と典型的な発症年齢の早い順に整理されており、早期段階に症候をとらえる観点からは、この順番に特有の不安症状を確認していくことは有用と考えられる。18歳以上の43,093人を対象とした米国のNational Epidemiologic Survey on Alcohol and Related Conditionsによると、うつ病における不安症の生涯有病率は、なんらかの不安症が41.4%、限局性恐怖症が20.4%、SADが12.8%、広場恐怖症を伴うパニック症が3.1%、広場恐怖症を伴わないパニック症が10.8%であったと指摘されており、うつ病におけるSADの併存は多いと考えられる。また、うつ病患者の通常診療と半構造化面接を使用して診断した時の併存する不安症の診断率はSADでは2.1%対32.7%、パニック症では8.1%対15.7%、全般不安症では6.7%対20.0%との報告もあり、うつ病診療においてもSADの併存を見逃さず慎重に対応することが重要である。独国での14から24歳の若年者の2,548例を対象に34から50ヶ月間前方視的に経過を追ったEarly Developmental Stages of Psychopathology Studyによる地域疫学調査では、調査開始時のSADの有病率は7.2%であり、経過観察期間でのうつ病の発症危険性はオッズ比3.5で高まったという。さらに調査開始時にSADとうつ病が併存している例では併存していないうつ病の例と比較しオッズ比2.3でうつ病期間の持続あるいは再発がみられ、オッズ比6.1で自殺企図がみられたという。SADは典型的な発症年齢が10代半ばと早いことから、うつ病の発症危険因子として重要と考えられるが、SADの併存はうつ病の経過増悪因子としても注意を払う必要がある。

略 歴

1993年 北海道大学医学部医学科 卒業
2001年 北海道大学大学院医学研究科 助手
2004年 北海道大学保健管理センター 講師
2010年 北海道大学保健センター 准教授
2010年 北海道大学医学研究院 神経病態学分野精神医学教室 准教授
現在に至る

資 格：精神保健指定医、日本精神神経学会指導医・専門医、日本医師会認定産業医
所属学会：日本精神神経学会、日本児童青年精神医学会など
専 門：臨床精神医学、臨床精神病理学

抄 録

一 般 演 題
(ポスター発表)

P-01

甘木病院における外来患者数の推移について

○吉良 健太郎

医療法人祥風会 甘木病院

【目的】 甘木病院は福岡県朝倉市（人口約5.7万人）にある唯一の精神科単科病院である。当院は平成28年10月に新病棟へ移転し、さらに平成29年5月からは完全予約制であった新患受け入れを撤廃して当日でも受け入れを行うようにするなど、ハード面・ソフト面ともに変更が行われている。これらの変化によって、外来の新患患者数や初診時の診断等に何らかの変化が見られたかどうかを検討する。

【方法】 平成26年4月～平成31年3月までの期間、当院初診となった患者の年齢、性別、初診時の診断について、後方視的にカルテ調査を行った。

【結果】 上記期間中、当院を初診となった患者数は1,132名（男性529名、女性603名）であり、平均年齢は48.4歳であった。初診時の診断ではF4圏内が532名（47.0%）と最も多く約半数を占め、次いでF3圏内が258名（22.8%）であった。5年間の新患数の推移は、平成28年以降増加傾向であった。それぞれの疾患の割合はほぼ横ばいであった。

【考察】 期間中の外来新患患者数は増加傾向であり、新病棟への移転や完全予約制の変更といった要因が関係していたと考えられる。予約から診察までの期間がなくなることで疾患の割合に変化が見られることも予想されたが、今回の結果からは明らかでなかった。

後援団体・協賛一覧

本学会の開催にあたり、ご後援・ご協賛をいただきました。
ここに厚く御礼申し上げます。

第19回 日本外来精神医療学会
大会長 徳永 雄一郎

後援団体	協 賛
福岡市	アステラス製薬株式会社
大牟田市	大塚製薬株式会社
福岡県医師会	株式会社新生堂薬局
福岡県精神科病院協会	塩野義製薬株式会社
福岡市医師会	大日本住友製薬株式会社
大牟田医師会	東和薬品株式会社
日本精神科看護協会 福岡県支部	日本イーライリリー株式会社
福岡県看護協会	ファイザー株式会社
福岡県作業療法協会	ミヤリサン製薬株式会社
福岡県臨床心理士会	Meiji Seika ファルマ株式会社
福岡県精神保健福祉士協会	持田製薬株式会社
	吉富薬品株式会社

(五十音順)

第19回日本外来精神医療学会
プログラム・抄録集

発行日：2019年6月21日

大会長：徳永 雄一郎

事務局：医療法人社団新光会 不知火病院
〒836-0004 福岡県大牟田市手鎌1800
TEL：0944-55-2000 FAX：0944-51-4005
E-mail：jaaps19@shiranui-byoin.or.jp
<http://jaaps19.umin.jp/>

出版：株式会社セカンド
〒862-0950 熊本市中央区水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F
TEL：096-382-7793 FAX：096-386-2025
<https://secand.jp/>